

令和5年度

ふるさと納税  
自治体連合表彰

令和5年11月17日

ふるさと納税の健全な発展を目指す  
自治体連合

# 「SDGs×ふるさと納税」～SDGs推進と全国の子ども食堂支援～ いちのせきし (岩手県一関市)

## ○事例概要

- ・SDGs推進を図るため、ふるさと納税の返礼分を原資として、全国の子ども食堂（※最優先は、市内の子ども食堂）に一関市の特産品（SDGs推進の視点から余剰分や規格外品などの農産物）を送付する取組を実施。



## ○寄付実績

令和4年度 7,350千円

## ○事業効果等

- ・全国各地40か所以上の子ども食堂支援を実現し、支援をした子ども食堂の子ども達が一関市を訪れ、農業体験を行った。交流・関係人口の創出や将来的な移住候補地になるなどの効果も期待できる。
- ・寄付者（寄付が具体的な事業に直接届く）、生産者（廃棄するかもしれなかった農産物を食べてもらえる）、子ども食堂（利用者が笑顔になる）、市（SDGs未来都市としての発信や特産品のPRに繋がる）、すべての関係者が恩恵を受けている。

## ○事業の評価

- ・子どもの居場所づくりを担う子ども食堂の支援とフードロスの取り組み、次世代を担う子どもたちへの農業体験の提供までをふるさと納税の仕組みを使って作り上げた素晴らしい事業。
- ・支援先を市内のみならず全国の子ども食堂とし、支援した子ども食堂の子どもたちが市を訪問することで、将来の関係人口化を目指している。
- ・ふるさと納税の意義にマッチしたお手本のような取り組み。モデル事業として全国に広めていただきたい。

**「守るために活かす」を合言葉として**  
**～世界農業遺産「大崎耕土」の保全と活用に向けた取組～**  
おおさきし  
**(宮城県大崎市)**

## ○事例概要

- ・大崎市を含めた1市4町（大崎市・色麻町・加美町・涌谷町・美里町）で構成される「大崎耕土」は、平成29年にFAO（国際連合食糧農業機関）から「持続可能な水田農業を支える『大崎耕土』の伝統的水管理システム」として世界農業遺産に認定されている。
- ・しかし、約430年前の新田開発以降受け継がれてきた当該システムは、地域内では「当たり前」の生活の営みであり、地域外からは見えづらいものであることから、次世代へつないでいくためにはその価値を地域内外に理解してもらうとともに、地域資源を積極的に活かしていくことが課題であった。



## ○寄付実績

令和3年度 49,852千円  
令和4年度 63,467千円

## ○事業効果等

- ・寄付を活用して地域内の全ての小学校3年生に副読本を配布し、総合学習の時間で活用することで、子どもの頃から地域への理解を深めてもらうほか、語り部育成講座やモニターツアー等をきっかけに、公民館や教育機関等の企画として、世界農業遺産に関する講座が開かれるようになるなど、地域における取組が広がっている。
- ・象徴的な景観である居久根（いぐね）の保全に向けて、保全マニュアルの作成に取り組んでいるほか、モデル地区の管理等に要する費用を補助する制度の創設や管理作業を組み込んだ体験プログラムの実施など、地域や企業、大学などと連携しながら取組を進めている。

## ○事業の評価

- ・「持続可能な水田農業」という、一見すると関係者が限定されそうな事業にふるさと納税の仕組みを取り入れることにより、潜在的な関心層を掘り起こしている。
- ・単純な保全・活用だけでなく、小学生向けの副読本の作成や地域内における価値の周知など、次世代へ継承していける取組みとなっている。

# 図鑑も電子で読める時代！タブレットを活用して貸し出しを 実現したい！（電子図書購入クラウドファンディング） （愛知県日進市<sup>にっしんし</sup>）

## ○事例概要

- ・ 図書委員として活動する生徒が、生徒の図書室利用が少なくなっていると感じ、この状況を解消するために、1人1台タブレットを活用して、本に触れ合う機会を増やせないかとの想いを込めて、企画書を学校に提案したことから事業が始まった。
- ・ 市では、電子書籍を増やすことで、学校図書室の利便性が向上し、生徒が本に触れ合う機会や選択肢が増え、教員の授業での活用も増えると良いと考え、ガバメントクラウドファンディングを実施した。



## ○寄付実績

令和4年度 4,085千円

## ○事業効果等

- ・ 目標額の139.8%もの寄付が集まり、約650ライセンス分の電子書籍を購入できた。電子書籍化によって、タブレット上で図鑑を気軽に持ち歩くことができ、調べ学習時にも最新の情報を複数人から同時アクセスが可能になった。
- ・ 電子書籍には、文字の読み上げ機能や拡大機能があることから、紙の図鑑では上手に見ることができない生徒も楽しむことができるようになった。

## ○事業の評価

- ・ 地域の課題や困りごとの解決のために自治体の財政だけでは難しい部分をお願いするのが本来のふるさと納税。生徒の想いからガバメントクラウドファンディングを行い、目標額以上の寄付をいただいている。
- ・ 生徒の想いを地域課題として捉え、ストーリー性を持たせたうえで施策として取り上げることで、クラウドファンディングの達成へ繋げている。